

# 国立山口徳地青少年自然の家 教育事業 徳地アドベンチャー教育プログラム「1日体験会」

① 2019年3月28日(火) ② 4月7日(日) ③ 4月14日(日)  
④ 7月21日(日) ⑤ 7月30日(火) ⑥ 8月27日(火)

【ねらい】 「徳地アドベンチャー教育プログラム」(以下、TAP)を利用する団体の引率の方に、TAPを体験してもらい基本的な理論を理解していただくことで、利用当日のTAPの教育的効果を高める。

【参加者】 ①: 13名(男性9名 女性4名) ②: 10名(男性7名 女性3名) ③: 23名(男性14名 女性9名)  
④: 11名(男性4名 女性7名) ⑤: 35名(男性14名 女性21名) ⑥: 11名(男性4名 女性7名)

## 【プログラムの内容】

### (1) 日程

1	9:30	9:40	12:30	13:30	14:10	14:20	14:50
日	開講式	TAP体験	昼食	TAP説明	閉講式	利用説明会	個別事前打ち合わせ
目	OR					全体	

### (2) 内容

○TAP体験: 目標への達成感とグループの一体感とともに、気づきを促すファシリテーターの関わり方を感じる。

○TAP説明: 以下のことを知る

・TAPの理論(目的、体験学習サイクル)・チャレンジが人を成長させること・各活動の進め方と意味・ふりかえりの意義

○利用説明会: 本所を利用する際に必要な手続きや、利用当日の引率に必要な知識を理解する

### ○開講式



開講式では体験会の意義について確認した。TAPを利用する団体の引率者の方が参加されていますので、引率者(指導者)としての視点を置いて、まず引率する子どもたちの立場になって、TAPを実際に体感していただくようお願いした。

### ○TAP体験



はじめに緊張をほぐすためのアイスブレイクを行い、人との関わりを心地よく感じるようにしていきます。その後、「失敗(エラー)が楽しい」「ちょっと恥ずかしいこともユーモアにできる」といった感覚になれるアクティビティを行い、「失敗しても大丈夫」と思えるような雰囲気醸成した。また、合間に感想や気づきを伝えあう時間を設け、それぞれが感じた事や気づきをつなげて、全体で共有していった。

### ○TAP体験(エレメント)



TAPでは「課題解決」が大きな山場になる。課題に対して、参加者の皆さんで目標を決定し、解決するためにどのように意思疎通を図り、合意形成をしていくかを体験した。その結果や過程から達成感やグループと個人の課題を発見、または再発見し、次の活動へつなげていった。その際、本所の特徴的な施設である「エレメント」を用い、グループの力を実感してもらった。



### ○TAP説明



2~4人のグループに分かれて、午前中に体験したTAPの効果について、それぞれが感じた事を伝えあった。その後、それぞれが感じた効果を踏まえつつ、本所が考えるTAPの効果や進め方について説明した。説明を聞いた上で、引率の方がどのような目的でTAPを宿泊研修の中に組み込まれるか、TAP実施前にどのように引率する子どもたちと関わるかについて、考え、伝えあった。



### 【参加者の声】

○TAPを仕組むために学校側が考えるべきことが明確になった。

○グループでトラブルが起きても、輪から出る子がいても見守るという姿勢に共感した。学級での自分の言動、家庭での母親としての言動に大いに活かすべき点があると学びをいただいた。

○参加者として楽しむことができ、指導者としてのかかわり方など大変学ぶことが多く、本当に来てよかったと思いました。

### 【成果】

○体験を通してTAPの教育効果を実感してもらうことができた。TAPを実際に体感した後にTAPの理論や目的を説明したことで、TAPの理念の理解を深めることができた。また、実施前の手続きや、事前指導について共有する時間を設けたことで、引率の方の不安軽減につながった。

### 【課題】

○参加者数が少なかった。本年は大型連休の関係で5月開催を無くしたため、「5月、6月に実施してほしい」という希望に対応できなかった。繁忙期にTAP実施する団体に対応できるよう、他の事業との開催時期の調整をする必要がある。また、過去にTAPを体験した人が増えてきているため、引率代表者だけでなく、引率する方全員が体験していただけるよう広報する必要がある。